

# 輸入狂犬病ワクチン接種同意書

私は、患者 \_\_\_\_\_ 様に対し、実施するワクチンについて、

別紙「輸入狂犬病ワクチン接種 説明書」のとおり説明しました。

年 月 日

同意取得医：だいどうクリニック 予防接種センター \_\_\_\_\_

---

## だいどうクリニック院長 様

別紙のとおり実施ワクチンの説明を受け、理解しましたので、その実施に同意します。  
また説明書と同意書の控えを受け取りました。

年 月 日

本人署名： \_\_\_\_\_ (印)

代諾者氏名： \_\_\_\_\_ (印)

(本人との関係: \_\_\_\_\_ )

## 輸入狂犬病ワクチン接種 説明書

目的・利点：狂犬病は、ヒトを含め、ほとんどの哺乳類に感染して致死性の脳炎を発症させる人畜共通感染症です。狂犬病に関する詳細は別紙参照してください。

国内承認ワクチンは接種スケジュールが0日、28日、6～12ヶ月の3回接種であるため接種完了までに時間がかかります。輸入狂犬病ワクチンは渡航までに免疫記憶を付けたい方にお勧めです。

使用ワクチン：Verorab（Sanofi-Pasteur 社製）

接種方法：6ヶ月以上で接種を勧める

0日、7日の計2回（2018年4月のWHO勧告に準ずる）

1回0.5ml 筋肉注射（成人は三角筋部、小児は大腿部）

接種料金：13,000円（税別）

有効性：90%は予防効果あり

2回接種で免疫記憶ができます。動物に噛まれた場合、速やかに暴露後接種が必要です。

副反応：接種部位の発赤、腫脹や痛み、倦怠感、頭痛など

注意事項：輸入ワクチンのため、国内未承認です。副反応が生じた時は国の救済措置、補償が適応されません。

輸入商社が提供する輸入ワクチン補償制度を利用できます。輸入ワクチン補償制度以外は当院では補償できません。

	輸入ワクチン	国産ワクチン
長所	接種完了までの期間が短い。 世界中で数多く利用されている。	日本で承認されているため、国の副反応補償制度が利用できる。
短所	日本では未承認のため、副反応が生じた時の救済制度が弱い(輸入ワクチン補償制度あり)。	接種完了までの期間が長い(半年かかる)。

### 輸入ワクチン副作用被害救済補償制度について

輸入ワクチンによって重篤な副反応が起きた場合、補償金をお支払いする制度です。

制度の利用にあたり、裁判で輸入ワクチン接種による被害であることが認められる必要があります。

暴露後接種(噛まれた後の接種)の必要性:2回接種していても犬などに噛まれたら暴露後接種として0日、3日の2回追加接種が必要です。国によってスケジュールが異なる場合があります。現地のドクターの指示に従ってください。

以上、ご不明な点がございましたら予防接種センターの医師、看護師にお尋ねください。

だいどうクリニック 予防接種センター

## 【狂犬病について】

狂犬病（Rabies）は、狂犬病ウイルスを持った犬や猫およびコウモリ、キツネなどの野生動物から、咬傷あるいは傷口を舐められて感染するウイルス性脳炎です。

日本では 1970 年を最後にその発症はありませんが、日本やイギリスやニュージーランドなどの島国を除いて、世界中で発生は続いています。

インドを中心に東南アジア、アフリカ、南米などでは毎年数十万人に治療としてのワクチンが接種され、それでも数万人の死者が出ています。

咬傷から約 1～2 ヶ月間の潜伏期の後に発症する。発熱、悪寒、疲れ、不安などの風邪症状で発症し、狂犬病特有の症状はありません。噛まれた部位に発赤、疼痛、かゆみなどを伴うこともあります。

その後、麻痺型と狂躁型という狂犬病に特有の症状が出現します。恐水発作という特徴的な痙攣発作や音に過敏に反応したり唾液分泌が亢進します。やがて呼吸中枢麻痺に至り死亡します。発病したら致死率は 100%と云われています。

潜伏期での診断は難しく、また発症してしまえば有効な治療法はありません。

咬傷後できるだけ早期に（できれば当日から）狂犬病ワクチンの接種を開始します。